



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社エス・サイエンス 上場取引所 東
 コード番号 5721 URL <http://www.s-science.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久永 賢剛
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 甲佐 邦彦 TEL 03-3573-3721
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	453	△5.6	△369	—	△1,747	—	△1,751	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 △11.47	円 銭 —
2025年3月期第3四半期	△0.20	—

(注) 当社は、2025年3月期第2四半期までは連結業績を開示しておりましたが、前第3四半期より非連結での業績を開示しております。そのため2025年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円 6,385	百万円 5,480	% 85.5
2025年3月期	3,006	2,871	95.5

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 5,458百万円 2025年3月期 2,871百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円 998	% △370	百万円 △1,709	% —	百万円 △1,448	% —	円 銭 △9.48		

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期3Q	175,145,749株	2025年3月期	141,593,749株
2026年3月期3Q	2,540株	2025年3月期	2,167株
2026年3月期3Q	152,711,514株	2025年3月期3Q	141,591,582株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査：無

法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 繼続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善、インバウンド需要の増加や政府の経済対策などを背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方でウクライナ・中東地域での戦争の長期化や継続的な物価上昇や流通コスト・人件費の増加に加え、アメリカの通商政策を始めとする不安定な国際情勢の影響による景気の下押しリスクなど先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当第3四半期累計期間の当社の業績につきましては、売上高4億53百万円、営業損失3億69百万円、経常損失17億47百万円、四半期純損失17億51百万円となりました。

セグメント業績は次のとおりであります。

(ニッケル事業)

LMEのニッケル価格が下落したことにより販売価額も落ち込んだため、売上高は4億46百万円（前年同四半期4億74百万円 6.0%減）となりました。

(不動産事業)

賃貸料収入のみ計上されたため、売上高は6百万円（前年同四半期5百万円 9.2%増）となりました。

(教育事業)

売上はありませんでしたが、事業所維持のため費用等が発生しており、セグメント損失（営業損失）は、9百万円（前年同四半期12百万円の営業損失）となりました。

(スマートDXソリューション事業)

売上は0.6百万円でしたが、維持のため費用等が発生しており、セグメント損失（営業損失）は、24百万円（前年同四半期20百万円の営業損失）となりました。

(クリプトアセット事業)

2025年7月より開始した事業であり、2025年9月末時点の暗号資産の時価に基づき、59百万円の暗号資産評価益を売上高として計上しましたが、2025年12月末時点において暗号資産事業は、継続的な運用収益を生み出す体制がまだ構築途上にあり、本格的な運用開始には至っておりません。また、暗号資産の価格は市場環境により大きく変動する特性を踏まえ、暗号資産に係る評価損益、運用損益、売却損益等については、今後すべて営業外損益で計上する方針へ変更いたしました。

その結果、セグメント損失（営業損失）は、費用の発生による3百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末の資産につきましては、流動資産は前事業年度末に比べ7億3百万円減少し22億9百万円となりました。これは主に現金及び預金等の減少によるものであります。

固定資産は前事業年度に比べ40億81百万円増加し41億75百万円となりました。これは主に自己保有暗号資産の増加等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債につきましては、流動負債は前事業年度末に比べ8億40百万円増加し、8億73百万円となりました。これは主に1年内償還社債の増加によるものであります。

固定負債は前事業年度末に比べ70百万円減少し、31百万円となりました。これは主に役員退職慰労引当金の減少によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べ26億9百万円増加し、54億80百万円となりました。これは主に資本金及び資本準備金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年1月20日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありませんが、今後業績予想の数字に影響を及ぼす状況が生じた場合は、速やかに開示を行ないます。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度からの営業損失が続いていることから、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。

一方、第三者割当等による資金調達の実行及び株主割当新株予約権の行使価額確定など資金確保策の進捗により、資金繰りの不確実性は一定程度緩和されております。そのため、継続企業の前提に関する注記の必要は無いものと判断しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,761,709	1,097,101
預け金	418,794	418,795
受取手形	21,047	18,739
売掛金	92,815	91,591
電子記録債権	48,395	54,651
販売用不動産	351,071	351,071
商品	210,231	89,349
前払費用	3,361	3,450
未収入金	500	490
未収還付法人税等	8	8
未収消費税等	83	20,958
その他	4,590	63,339
貸倒引当金	△38	△38
流動資産合計	2,912,570	2,209,510
固定資産		
投資その他の資産		
暗号資産	-	4,092,887
投資有価証券	1,377	1,582
出資金	900	900
敷金及び保証金	62,785	62,785
長期貸付金	2,400	2,400
会員権	19,308	19,308
長期未収入金	31,812	31,812
その他	12,870	1,227
貸倒引当金	△37,412	△37,412
投資その他の資産合計	94,041	4,175,491
固定資産合計	94,041	4,175,491
資産合計	3,006,612	6,385,001

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,868	8,389
未払金	9,367	27,720
未払費用	3,252	3,794
1年内償還予定の社債	-	740,584
未払法人税等	5,055	69,085
前受金	-	20,000
前受収益	387	1,478
預り金	2,256	1,379
賞与引当金	4,090	1,129
流動負債合計	33,277	873,559
固定負債		
退職給付引当金	13,885	25,360
役員退職慰労引当金	86,310	3,912
受入敷金保証金	1,800	1,800
繰延税金負債	332	360
固定負債合計	102,327	31,433
負債合計	135,605	904,992
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	2,269,492
資本剰余金		
資本準備金	-	2,169,492
その他資本剰余金	2,597,570	2,597,570
資本剰余金合計	2,597,570	4,767,062
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	172,924	△1,578,623
利益剰余金合計	172,924	△1,578,623
自己株式	△94	△138
株主資本合計	2,870,400	5,457,793
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	606	783
評価・換算差額等合計	606	783
新株予約権	-	21,432
純資産合計	2,871,007	5,480,008
負債純資産合計	3,006,612	6,385,001

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	480,356	453,341
売上原価	420,074	402,802
売上総利益	60,282	50,539
販売費及び一般管理費	287,252	419,736
営業損失 (△)	△226,970	△369,197
営業外収益		
受取利息	0	4
受取配当金	97	51
受取賃貸料	40	40
その他	1,283	251
営業外収益合計	1,422	348
営業外費用		
暗号資産評価損	—	907,112
社債利息	—	24,337
社債償還損	—	253,069
新株予約権発行費	—	191,246
その他	4,797	2,717
営業外費用合計	4,797	1,378,483
経常損失 (△)	△230,345	△1,747,332
特別利益		
子会社株式売却益	206,000	—
特別利益合計	206,000	—
特別損失		
事業所閉鎖損失	854	—
減損損失	—	892
特別損失合計	854	892
税引前四半期純損失 (△)	△25,200	△1,748,224
法人税、住民税及び事業税	3,947	3,322
法人税等合計	3,947	3,322
四半期純損失 (△)	△29,148	△1,751,547

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

株主資本の著しい変動

当社は当第3四半期累計期間において、第8回新株予約権として割当先であるLong Corridor Alpha Opportunities Master Fund、MAP246 Segregated Portfolio, a segregated portfolio of LMASPC及びBEMAP Master Fund Ltd. が全ての権利を行使したことに伴い新株式が発行されたため、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,169,492千円増加しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	ニッケル事業	不動産事業	教育事業	スマートDX ソリューション事業		
売上高						
外部顧客への売上高	474,361	5,994	—	—	—	480,356
計	474,361	5,994	—	—	—	480,356
セグメント利益又は セグメント損失(△)	28,334	△5,094	△12,244	△20,120	—	△9,125

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「スーパー・マーケット関連事業」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	△9,125
全社費用(注)	△217,844
四半期損益計算書の営業損失(△)	△226,970

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計
	ニッケル事業	クリプトアセット事業	不動産事業	教育事業	スマートDXソリューション事業		
売上高							
外部顧客への売上高	446,101	—	6,546	—	692	—	453,341
計	446,101	—	6,546	—	692	—	453,341
セグメント利益又はセグメント損失(△)	14,063	△3,530	△11,135	△9,818	△24,504	—	△34,927

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	△ 34,927
全社費用(注)	△ 334,270
四半期損益計算書の営業損失(△)	△ 369,197

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社のセグメントは、「ニッケル事業」、「不動産事業」、「教育事業」、「スマートDXソリューション事業」、「その他」の5つに区分しておりましたが、2025年7月に新規事業として「クリプトアセット事業」を立ち上げたことで、これを加えた6つのセグメントに変更することいたしました。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当第3四半期累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント						その他	全社・消去	合計
	ニッケル事業	クリプトアセット事業	不動産事業	教育事業	スマートDXソリューション事業	計			
減損損失	—	—	—	—	—	—	—	892	892

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係るキャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,046千円	70千円